あたたかい人間関係の中で、自分らしさを発揮して学習に取り組める場を

彦根市	活動名　：　水曜放課後学習会	東中学校　　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：25 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：２人
平均参加人数：８人　　学習支援員等 平均人数：　５人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
放課後の時間を利用して、生徒たちが自主的に学習できる場を提供。基礎でつまずいている生徒には、学習支援ボランティアが寄り添い学力を向上させる。地域の人とつながる場をつくる。

■　特徴的な学習支援内容
生徒の自主性を尊重し、生徒が決めたことをやり遂げられるような支援を心がけた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
「東中学校区地域学校協働本部」が主体となり、学校と相談しながら開催。３年生の希望する生徒を対象としたが、２学期には、２年生の生徒から参加希望があったため受け入れた。生徒個別の学習ファイルを作成し、学習終了後に、各自で学習の振り返りを記入し、ボランティアがメッセージを書くなどして交流に活用した。

【　学習会の様子　】

■　事業の成果
生徒とボランティアとの関係がよく、生徒は安心して積極的に質問し学習をすすめている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
１年生の希望者も受け入れたいが、ボランティアの数が足りないため難しい。多忙な教員との連携が難しく、家庭の事情で家庭での学習が難しい生徒や不登校の生徒など、本来こうした場が必要であろう生徒になかなか届かない。

報告書記入者（　　協働活動推進員　　）

それぞれの「○○したい！」にあった支援で、学力アップ！

彦根市	活動名　：　くろがねもち教室	城東小学校　　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：　学校（各教室）　　開始年度：令和４年度
年間開催日数：３日（開催ペース：夏季休業中）　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務２人）
平均参加人数：20 人／１日　　学習支援員等 平均人数：　４人／１日
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・３年生以上を対象とし、国語、算数の基礎的・基本的な学習内容の定着を目指す。
・夏季休業終盤の３日間、8：30 から実施。

■　特徴的な学習支援内容
・１学期の学習状況を参考に、個々の課題に応じた問題等を準備し、取り組む。
・各学年２～３人体制で指導に当たり、それぞれの困り感に寄り添った個別の指導・支援を基本とする。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・１学期末個別懇談会で保護者に案内する。
・友達同士で話をしたりせず、自分の課題に集中して取り組むようにする。

【個別の支援を受け、安心して取り組む】

■　事業の成果
・２学期開始直前に設定したことで、夏季休業中の課題について質問をするなど、子ども自身が課題意識をもって参加することができた。また、8：30 開始としたことにより、生活リズムを整えるきっかけになった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・下校時の見守り等への協力もいただけけると、参加する児童・保護者ともさらに安心感をもてるのではないかと考える。

報告書記入者（　　地域連携担当教員　　）

個に応じた学習支援～「わからない」を大切に　明日の授業に自信と楽しみを～

彦根市	活動名　：　さわやま教室	佐和山小学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：18 日（開催ペース：月２～３日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：14 人　　学習支援員等 平均人数：　５人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
佐和山小学校高学年児童で、主に算数科で学年相当の学習にしんどさが見られる児童を対象に、学力の向上を目指して学力補充をしている。

【　学習の様子　】

■　特徴的な学習支援内容
学校（担任や担当教員）と連携を取り、児童一人一人の学習課題を把握し、学習計画を立てる。学習進度に合わせて予習・復習を行う。学年別に担当する学習支援員を大まかに決めて、できるだけ同じ支援員が指導・支援にあたることで子どもたちが安心して聞ける関係づくりに努めた。少人数での学習形態で一人一人の弱みを補充するため、子どもたちも達成感が得やすく、わかることが意欲につながり楽しく学習に取り組めている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
高学年の希望者が対象。学期ごとに参加希望者を募り、保護者と担任で話し合って参加日程を決めている。

■　事業の成果
昨年度申し込んで学習への理解の深まりと楽しさを実感した児童が、今年度も申し込み、積極的に学習に取り組んでいる。「わかる」ことの楽しさが日々の授業への意欲にもつながっている。また、少人数で自分のペースに応じた学習ができるよさを体験し、コツコツと学習を積み上げられることを子ども自身が感じて前向きに学習に取り組んでいる。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
学習支援員の人材確保が難しい。昨年度からの継続で確保できているところはあるが、少人数での個別支援という学習形態を続けていくためにも、安定した人数の保障についてよりよい手立てを模索していく必要がある。

報告書記入者（　　学ぶ力向上推進リーダー　　）

「あなたの未来のために学力向上をめざしませんか？」　来たれ！　未来塾

彦根市	活動名　：　学力補充教室	西中学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：被服室・理科室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：22 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数：　５人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・学力補充を目的とした学習教室を開催した。放課後や夏季休業中の時間を活用して学習支援員が個別の学習指導を行った。

■　特徴的な学習支援内容
・元教職員の学習支援員による、豊富な経験と高い指導力を生かして生徒の学力向上を図った。
・各自が学習課題を自身で準備することで、生徒の目的意識を明確にした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・全学年を対象にして、自主的に取り組める希望者を募り実施した。
・夏季休業中は、各学年の学力補充教室と連携して実施した。
・２会場で学習会を実施し、集中して学習ができる対策を行った。

【放課後学習教室】

■　事業の成果
・個に応じた学習支援が実施でき、学習意欲の向上が図れた。
・地域の方との交流が深まった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・学習支援員の高齢化が進み、人材を確保することが難しくなりつつある。
・学生の支援員としての意識が低く、参加率が悪かった。

■　その他
・特別な支援を必要とする生徒への指導者側の学習支援スキルを高めていくための体制を検討する必要がある。

報告書記入者（　　教頭　　）

夏休みきらり学習教室　　～個別指導による学力補充学習～

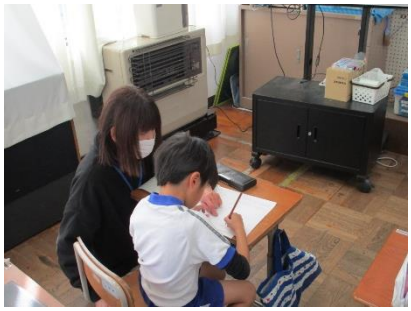
彦根市	活動名　：　夏休みきらり学習教室	城北小学校　　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：教室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：３日（開催ペース：年３日）　　地域学校協働活動推進員数：１人
平均参加人数：60 人　　学習支援員等 平均人数：４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　　□土曜日実施　　■長期休業日実施　　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・実施日時：夏季休業中の３日間、（７月 21 日（金）24 日（月）25 日（火））、いずれも 8:30 から 10:00 まで
・目　　的：算数科を中心とした、個別の学力補充

■　特徴的な学習支援内容
・算数科に絞り、個々の児童の苦手とする課題や児童が高めたいと考える内容について、補充指導や問題演習を行った。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・担任より個別指導が望ましいと考える児童の参加を中心とした。



■　事業の成果
・地域の方々の協力のおかげで個別対応が可能となり、つまずきを的確に把握し、スモールステップできめ細かに支援することができた。本学習を通して、子どもたちは「分かった！」「できた！」という思いを実感し、学習への意欲を高めることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・さらに充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めていきたい。

報告書記入者（　　教頭　　）

基礎・基本の定着をねらいとした学習支援

彦根市	活動名　：放課後バックアップ教室	城西小学校　　学校運営協議会　：　■有　□無

主な活動場所：　　開始年度：平成 24 年度
年間開催日数：16 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員等数：２人（兼務０人）
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　　□土曜日実施　　■長期休業日実施　　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・算数科の基礎・基本の定着に向け、個別指導を主とした教室を４～６年生の希望者を対象に年間 16 回開催した。

■　特徴的な学習支援内容
・プリントやドリルの内容を基本とし、個別指導を主とした学習支援を行っている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・下校時、保護者が確実に迎えに来られることを確認し、迎えが可能な児童のみ参加できることとした。

【　６年生のバックアップ教室　】

■　事業の成果
・児童に個別に対応することができるため、その児童が持つ困り感に寄り添い、理解を深められることができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・より充実した指導となるよう、多くの学習支援員の確保が急務となる。

報告書記入者（　　教頭　　）

来てみる・やってみる　「土曜教室・てみる」

彦根市	活動名　：　土曜教室・てみる	中央中学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：理科室　　開始年度：平成 26 年度
年間開催日数：７日（開催ペース：月 1～2 日）　　地域学校協働活動推進員等数：1 人
平均参加人数：15 人　　学習支援員等　平均人数：　８人
・学習形態　　：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　　■土曜日実施　　□長期休業日実施　　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：■企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
子ども達への学習補助はもちろん学習支援員等との対話を通じて、学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。

【１対１を基本として実施】

■　特徴的な学習支援内容
１対１または子ども２人に指導者１人とし、学習支援員との関係づくりを大切にして、生徒のやる気を尊重した学習の動機付けとなる学びの場をつくっている。２時間の学習時間の合間に、生徒と支援員の交流の時間を設定して、話をしたり、カードゲームなどを一緒に行ったりすることで、よりコミュニケーションが深まるようにしている。
この交流を楽しみにしている生徒も多く、ここでの温かで励ましのあるふれあいから生徒の自尊感情の高まりなども期待している。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
全校生徒に案内を配布し希望を募っている。開設日は、部活動や各種検定の時間と重ならないように配慮して調整している。毎回、実施後に地域コーディネーターが中心となり学習支援員、学校関係者で集約会議を行い、子どもの関わりの質の向上につなげている。

■　事業の成果
個別指導により、つまずきを的確に把握しながら学習支援を行い基礎学力の定着を図ることができている。特に、３年生の受講者が多く、各自が考えている受験先の学習に対応することで、進路の実現につなげることができている。また、休日の午前中に開催することで、生活リズムを整え学習習慣の定着にもつながっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
活動推進員や学習支援員の確保、企画・運営ができるコーディネーター確保が必須である。

報告書記入者（　　教頭　　）

子どもの自主的な学びと育ちを支える地域の居場所づくり

彦根市	活動名　：　学び育ちＬＬ教室	中央中学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：中地区公民館　　開始年度：平成 24 年度
年間開催日数：44 日（開催ペース：週 1 日、月 4 回）　　地域学校協働活動推進員等数：1 人
平均参加人数：14 人　　学習支援員等　平均人数：10 人
・学習形態　　：■個別の学力補充　　□教材を使った一斉学習　　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　　□土曜日実施　　□長期休業日実施　　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：■企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　■NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
毎週月曜日の夜に地域の公民館にて開催。自主的な学びへの動機付けや将来なりたい姿を見つけることをねらいとしている。学習の補充を行い、自信をもたせる。

【　ＬＬ教室の様子　】

■　特徴的な学習支援内容
マンツーマン対応で学習支援員やボランティアとの関係づくりを大切にし、子どものやる気を尊重した学びの場をつくっている。固定した時間割は定めず、子どもの状況に応じて、人間関係づくりの向上を目指して、交流を目的とした活動を取り入れている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
全校生徒に案内を配布している。また、活動状況はフェイスブックから発信していることから、近隣学区の子どもたちの参加もある。

■　事業の成果
個々の学力やモチベーションにあわせて学習を進めることで主体的に取り組む場となっている。また特別な支援を要する子どもや生活面での課題を抱えている生徒も参加し、他者とかかわったり自分を見つめたりする時間となり、地域での居場所づくりになっている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
ボランティアの確保や数年ごとの教科書変更に対応した教材整備と教材の保管場所確保が課題である。

報告書記入者（　　教頭　　）

放課後学習「水曜ゼミ」

彦根市	活動名　：　南中未来塾「水曜ゼミ」	南中学校　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：南中学校区　　開始年度：平成 29 年度
年間開催日数：15 日（開催ペース：週１日）　　地域学校協働活動推進員数：１人（兼務１人）
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・放課後学習「水曜ゼミ」（11～２月）は、３年生を対象に進路実現に向けて基礎的な学力を身に付けるために、プリントを使って学習している。基本、週に１回のペースで実施している。
・未来塾事業を活用した夏休み補充教室は、実施していない。

■　特徴的な学習支援内容
学習支援員は、教員や地域の住民、近隣に在籍している大学生が中心となり、個別の学習支援にあたっている。水曜ゼミの学習教材としては、県立入試問題集や国語・数学・英語の基本的な内容プリントを準備して、個に応じた学習に取り組めるようにしている。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
水曜ゼミは受験を控えた３年生で、特に基礎学力の強化が必要と思われる生徒を対象に実施している。近隣の大学生や本校卒業生への連絡、また地域学校協働活動推進員による地域への声掛けや連絡により、学習支援員の確保にあたっている。

■　事業の成果
家庭では一人で学習できない生徒の学習の場となり、学習支援員に積極的に質問するなど意欲的に取り組んでいる。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
参加生徒に対して学習支援員の人数が少ない日もあり、安定した人材確保が必要である。校区にある大学と連携し、学習支援員が確保できる体制も今後検討したい。また生徒用学習者用端末の活用についても検討を進めていきたい。

報告書記入者（　　教頭　　）

夏休み前補充学習教室

彦根市	活動名　：　亀山補充学習教室	亀山小学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：　かめやまホール　　開始年度：令和２年度
年間開催日数：３日（個別懇談期間中）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：18 人　　学習支援員等 平均人数：　６人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
昨年度までは、夏季休業中の３日間に全校児童に参加希望を募って、学習教室を実施していた。参加希望者が多く、意欲的に学習できたが、今年度は、個別の学力補充というところに重点を置いた学習教室を計画、実施した。

■　特徴的な学習支援内容
・学習支援員一人に児童２～３人が教えてもらうことができた。
・一人一人に応じた課題を準備し、学習を進めた。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
開催時期として、児童の登下校を保護者の方にお願いするうえで、夏季休業中よりも課業日の方が送迎していただきやすいのではないかと考え、個別懇談中の３日間に設定した。個別懇談の放課後であれば、学習時間も十分確保することができ、保護者の方にも送迎をお願いしやすいと考えた。参加については、算数科で４年生以上とし、少人数で個別に学習の補充ができるようにした。また、課題については、一人一人の学習状況に応じた課題に取り組めるように、担任が問題を精選した。

■　事業の成果
募集人数と補充教室での学習内容を限定したことで、学習支援で来ていただいた地域の方と担任外の教務・管理職で２～３人ずつの児童の学習支援を行うことができた。児童は、わからないところがあるとすぐに聞くことができたり、解答をすぐに確認してもらうことができたりするので、「わからない」が「わかる」になり、意欲的に学習に取り組むことができた。また、地域の方に来ていただいて教えてもらえたことは、地域の方と身近に接するよい機会ともなった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
開催時期の検討や学習支援に協力いただける方の確保について、考えていく必要がある。

報告書記入者（　　教頭　　）

学びを育む学習会

彦根市	活動名　：　彦根中地域未来塾	彦根中学校　　学校運営協議会 ： □有　■ 無

主な活動場所：被服室　　開始年度：平成 29 年度
年間開催日数：42 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数：０人
平均参加人数：18 人　　学習支援員等 平均人数：３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
・毎日の授業だけでは十分に学力が定着しない生徒も多く、何を学習してよいのかわからない生徒も多数いる。そこで、地域の方々や大学生等の協力を得て、一人ひとりの学力に応じた学習を個別対応で進め、学習習慣と学力の定着を図る。

■　特徴的な学習支援内容
・夏季休業中の補充教室や質問教室では、全学年で５日間開催し、生徒の自主学習に対する支援を、学習支援員と教員が行った。
・３年生の放課後学習会では、10 月から毎週火・木曜日を基本にして、生徒が持参する学習教材に対する支援を、学習支援員と教員が行った。

【　３年生放課後学習会　】

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・３年生の放課後学習会では、参加希望者が多かったので曜日でメンバーを分けて実施した。

■　事業の成果
・学習支援員に積極的に質問したり終了時刻になっても続けようとしたりするなど、勉強に対する意欲が高まった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・域学校協働本部事業に関わる地域の方にも学習支援員として参加してもらえるように、方法を模索したい。

報告書記入者（　　教頭　　）

算数科学習支援教室

彦根市	活動名　：５年生学習支援教室	河瀬小学校　　学校運営協議会 ： □有　■ 無

主な活動場所：５年生教室・少人数教室　　開始年度：平成 23 年度
年間開催日数：10 日（開催ペース：週５日）　　地域学校協働活動推進員等数：２人
平均参加人数：30 人　　学習支援員等 平均人数　：２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　■その他（プリント等採点）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　□地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・５年生算数科の学習支援を行い基礎学力の定着を図る。
・学習に自主的に、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

■　特徴的な学習支援内容
・算数の基礎的な学力の補充　・プリントを採点する。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・今年度本校に教育実習に来た実習生に声をかけ、学習支援を依頼した。
・５年生の学習に合わせて支援をしてもらった。２学期末は、既習学習の復習を中心に支援をしていただき、３学期は、面積の学習に特化してクラスごとに支援をしていただいた。

【　復習プリント　チェックしてもらう児童　】

■　事業の成果
・休み時間を利用し担任が１人で復習や定着度合いを見取っていたが、２人体制で指導することで個々の学力に応じた効率的な支援をすることができた。
・２学期末の復習の時期に設定することで、これまでの学習でのつまずきに気づき、解き方の再確認ができた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・ここ数年、支援員を教育実習生にきてくれた学生にお願いしている。子どもとの年齢も近いこともあり、子どもにとって親しみやすい存在であり、学習について聞きやすい存在となっている。今後も、実習生を中心に声をかけ支援員の確保に努めたい。
・休み時間の学習補充教室以外にも、学習支援をしていただく機会を模索していきたい。

報告書記入者（　　地域連携担当教職員　　）

地域とともに育てる子どもの学ぶ力

彦根市	活動名　：　学力向上教室	高宮小学校　　学校運営協議会　：　□有　■　無

主な活動場所：　　開始年度：令和３年度
年間開催日数：２日（　夏季休業中　）　　地域学校協働活動推進員等数：０人
平均参加人数：60 人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・基礎学力の定着及び学力のさらなる向上を図る。
・学習習慣の定着とともに、学習に自主的、意欲的に取り組もうとする態度を養う。

■　特徴的な学習支援内容
・国語と算数を中心に補充学習を進める。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・前半後半の２つのグループ制にした。前半は、基本コースとし、授業の復習や夏休みの宿題に取り組んだ。後半の応用コースでは、発展問題に取り組んだ。

■　事業の成果
・少人数の学習の機会としたことで、個々の学力に応じた支援ができた。

【　学力向上教室　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・より充実した指導となるよう、学習支援員の確保に努めたいが、予算的に厳しい状況である。

報告書記入者（　　地域連携担当者　　）

地域と学校を結ぶ鳥居本地域未来塾

彦根市	活動名　：　学力補充教室	鳥居本中学校　　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：各教室　　開始年度：平成 24 年度
年間開催日数：10 日（開催ペース：夏休み）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：10 人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　□元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　■その他

■　活動の概要と目的
生徒の学力の補充を目的として、長期休業中に、教員と一緒に実施している。

■　特徴的な学習支援内容
・基礎的な学力の補充
長期休業中に出される英語、数学、国語、理科、社会の課題（ワーク、タブレットドリル）の基礎的な問題やわからない問題を中心に個別支援している。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・学力の補充が必要な生徒に、教員が参加勧誘の声をかけた。
・学習支援員の人数に偏りが出ないようにスケジュールの調整をする。

■　事業の成果
・生徒は、わかりやすく教えてもらっていると好評である。
・地域の方も、中学生に学習を教えることで喜んでもらえる充実感がある。
・学習を通して、地域の方と中学生が交流できる。

【　夏休み補充学習　】

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・学習支援をしてくださる地域の方が、限定されている。支援をしてくださる地域の方をどのように発掘するかが課題である。
・平日の放課後等の実施は、行事や時間設定、人員の確保という面から、なかなか難しい。

報告書記入者（　　教頭　　）

輝く笑顔　一人ひとりの「わかった！」をめざして

彦根市	活動名　：　夏休み国語算数教室	鳥居本小学校　学校運営協議会　：　■ 有　□ 無

主な活動場所：鳥居本小各教室　　開始年度：令和２年度
年間開催日数：３日　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：20 人　　学習支援員等 平均人数：　３人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：□平日放課後実施　□土曜日実施　■長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
国語科・算数科の基礎基本の学力の定着を目的として、夏季休業中の３日間（７月 21 日(金)、24 日(月)、25 日(火)）、いずれも、8:30 から 10:20 まで実施した。

■　特徴的な学習支援内容
基礎基本の内容に特化した内容の補充指導や問題演習を行う。間違いやつまずきに個別に対応し、「わかった」を実感できるよう、きめ細かな支援をする。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
個別指導が望ましい児童への、担任からの呼びかけにより参加を募り、個に応じた学習を進め子どもの自信につなげた。
地域学校協働本部事業にていただいた意見を組み入れ連携して事業を実施した。実施した様子についてもまた、学園運営協議会等においても伝えるようにした。

■　事業の成果
学習そのものに苦手意識があり、基礎基本の積み上げが困難な児童が参加しているため、スモールステップの学習活動を仕組み、褒め認める言葉がけにより成就感や達成感を実感できるよう支援した。その結果、一つ一つを積み上げることの大切に目を向ける児童の姿も見られた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
よりきめ細かな対応が充実するよう、支援いただける方の確保に努めたい。

【　夏休み国語算数教室　】

報告書記入者（　　教頭　　）

生徒と指導者、生徒同士で教えあい、学びあう態度を培う学習塾

彦根市	活動名　：地域未来塾	稲枝中学校　学校運営協議会　：　■有　□ 無

主な活動場所：稲枝中学校多目的室、図書室　　開始年度：平成 28 年度
年間開催日数：21 日（開催ペース：週１・月４日）　　地域学校協働活動推進員等数：４人（兼務２人）
平均参加人数：15 人　　学習支援員等 平均人数：　４人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
中学３年生の受験対策、塾等に行かない生徒の学力補充

■　特徴的な学習支援内容
中学生同士で教え合いをし、指導者が支援をする。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
稲枝中学校第３学年に依頼して参加生徒を募集

■　事業の成果
ともに学ぶ姿勢が身に付き、自主性が育ってきた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
生徒の参加者を抱えている課題などで、制限を設け、支援体制をはっきりさせる、逆に学校で勉強したい者はだれでも参加できるなど、目的を明確にできればと思う。

【　熱心に学習する生徒　】

報告書記入者（　　地域学校協働支援員　　）

子どもたちの学びを豊かにする地域支援活動「かがやき教室」

彦根市	活動名　：　かがやき教室	稲枝東小学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：　音楽室　　開始年度：平成 30 年度
年間開催日数：10 日（開催ペース：月１、２日）　　地域学校協働活動推進員等数：５人（兼務１人）
平均参加人数：25 人　　学習支援員等 平均人数：　５人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　■地域住民　■大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
３・４・５年生の児童を対象に、６月より月に１，２回程度の学力補充の時間を計画した。

【　学習支援の様子　】

■　特徴的な学習支援内容
担任からの聞き取りをもとに、事前に児童がつまずきを感じている学習内容を何種類か選び、プリントを作成する。児童は、自分の課題に合った学習内容を進め、学習支援員は児童の困り感や質問に応じて、個別の学習支援を行った。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
基礎的・基本的な内容に絞り、参加を呼び掛けた。併せて、個別に支援することで伸びが期待できる児童にも担任から声をかけて参加を促した。

■　事業の成果
担任からの聞き取りをもとに学習プリントを絞り準備したことで、苦手な内容の克服に一定の成果が見られた。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
少人数のよさを生かして個に応じた支援ができたが、人数が増えるとその効果がやや弱くなる。
年間を通して個の成長を記録して見取るまでは、今後の課題である。

■　その他
本校の取組について、日々の学校生活の様子と併せて稲枝東小学校ホームページにて紹介しています。
https://www.fureai-cloud.jp/inaehigashi-hikone/

報告書記入者（　地域連携担当教員　）

わくわく　はえみ学習

彦根市	活動名　：　ホップタイム	稲枝西小学校　学校運営協議会　：　■有　□　無

主な活動場所：　　開始年度：令和２年度
年間開催日数：13 日（開催ペース：月１～２日）　　地域学校協働活動推進員等数：０人
平均参加人数：21 人　　学習支援員等 平均人数：　６人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
・確かな学力の定着と苦手な学習内容の復習

【　ホップタイム　】

■　特徴的な学習支援内容
・一つの学級を２グループに分け、各グループに２名の指導者を配置した。課題は学習内容に合わせて難易度を分けて用意したり、教科書、ドリルの問題を使用したりした。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
・学年の学習内容や定期テストに合わせて学習課題を準備することで、子どもたちも目標をもって取り組むことができた。また、学級での既習内容について確かめたり振り返ったりすることもできた。

■　事業の成果
・１クラス 10～13 名の少人数で実施し、元教員を２名配置することで、充実した個別学習支援をすることができた。また、子ども同士で教え合ったり、励まし合ったりする場面も見られ、難しい問題でも自分の力で最後まで取り組もうとする粘り強さが育ってきている。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
・学期ごとの日程調整や内容確認を早めに行ったことで計画的に取り組むことができた。

報告書記入者（　地域連携担当職員　）

「できる・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学意欲を高める

彦根市	活動名　：　ぐんぐんクラブ	稲枝北小学校　学校運営協議会　：　■有　□ 無

主な活動場所：２年教室・４年教室　　開始年度：平成 27 年度
年間開催日数：50 日（開催ペース：週２日）　　地域学校協働活動推進員等数：１人
平均参加人数：５人　　学習支援員等 平均人数：　２人
・学習形態　　：■個別の学力補充　□教材を使った一斉学習　□その他（　　）
・教室のもち方　　：■平日放課後実施　□土曜日実施　□長期休業日実施　□その他（　　）
・学習支援員等の属性：□企業関係者　□行政職員　■元教職員　□地域住民　□大学生　□NPO 等関係者　□その他

■　活動の概要と目的
少人数による個別指導で「できた・分かる」楽しさと喜びを味わわせ、子どもたちの学ぶ意欲を高められるようにする。

■　特徴的な学習支援内容
課業日の月曜日（１～３年）水曜日（４～６年）、学期ごとに参加児童を募集し定員を８名程度までとして学習支援ボランティアによる指導を行う。算数科を中心に宿題をしたり個に応じた課題（プリント等）を準備して実施したりし個別の進度で学習を進める。

■　参加者の募集や事業実施に当たっての工夫
全校児童に募集をし、希望者の中から個別指導を要する児童が参加できるようにしている。希望者が多数の場合は、支援を必要とする児童に絞り、４～７名という少人数で実施している。

■　事業の成果
学習に苦手意識のある児童、集団の一斉学習では学習内容の習得が困難な児童への個別支援が充実した。分からないことをその場ですぐに聞いたり、やり直したりできることで、「できる・分かる」という実感をもたせることができた。また、個別に復習等に取り組むことで理解が進み、児童の学習意欲も高まった。

■　事業実施上の課題と今後の学習支援活動に向けて
支援の必要な児童が参加を希望しない場合があり、募集の仕方を工夫する必要がある。効果があることを知らせ、児童へ声をかけるとともに、懇談会などを通して保護者に直接声をかけていきたい。また、学習支援者と担任との打合せを充実させるなど連携を一層、密にしていく必要がある。

■　その他
地域学校協働活動推進員のご尽力により現在の学習支援者にお世話になることができているが、今後の人材確保も課題となっている。

報告書記入者（　　教頭　　）